

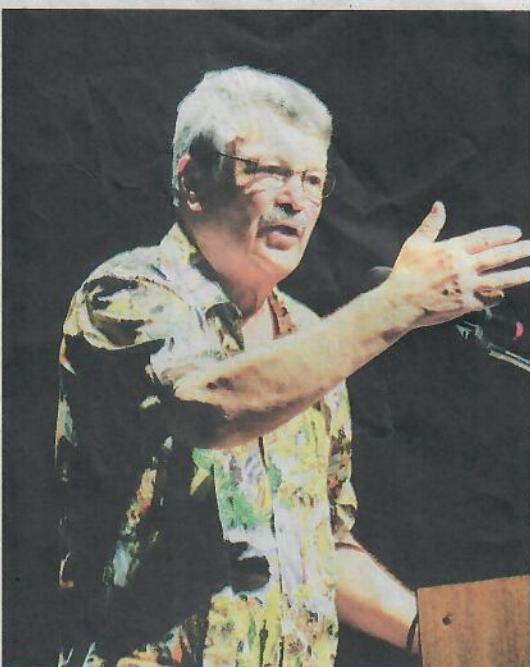
バラーズ氏

# 「人と共生大切」

## 日本ウミガメ会議開幕

第25回日本ウミガメ会議(NPO法人日本ウミガメ協議会主催)が28日、奄美市の奄美文化センターで開幕した。奄美群島での開催は2011年の沖永良部島に続き2回目。

各地の研究者と自然保護関係者、住民ら約200人が集まつた。初日は国際自然保护連合(IUCN)ウミガメ専門委員会副議長のジョージ・バラーズ氏が特別講演。保護についてアオウミガメが回復して観光振興につながったハワイの事例を示し「人とウミガメの共生」の大切さを語った。



日本ウミガメ会議初日の特別講演  
を行ったジョージ・バラーズ氏=28日、奄美市

## 奄美市

同市の朝山毅市長が議論することは世界自然遺産登録を目指す地元にとって喜ばしい」と歓迎あいさつ。同協会は、12年に奄美海洋生物研究会が関係機関や住民らと自治体未調査以上の研究員として4年以上にわたってハワイ諸島個体群のアオウミガメの保全や環境教育に尽力。アオウミガメを回復させ11年に米国の絶滅危惧種指定解除に導いた。

講演で、「カメを食べる文化を持つ住民が捕獲を停止し、1973年に産卵する母カメが67頭だったのが今年は846頭に回復した△ウミガメが安心して浅瀬で海藻を食べたくなり、浜辺で日向ぼっこをする様子も観察で

地の調査に乗り出したことに触れ、「ウミガメに関する日本の空白がほぼ消えた。日本のウミガメを見守つていこう」などと述べた。

バラーズ氏は米国の大島養護学校(龍郷町)の小学校部を招待したクリスマス交流会が活動報告がある。



## 奄美文化の

奄美文化の、奄美文化についてのミニ講義も受けた龍郷町老人クラブ連絡協議会(伊集院忠三郎会長)の女性部会(重田シオリ部会長)は28日、研修の一環で南海日日新聞社を訪れた。会員47人が社内を見学し、新聞制作工程を学んだ。

同女性部会では毎年研修会を開き、年2回福祉施設を訪問している。今年の研修は文化をテーマに奄美市博物館や浄化センターなどを訪問。南海日日新聞社では奄美文化についてのミニ講義も受けた。

## 大島養護小学部を招

ク

き、観光振興にもつながったなどと説明し遂げた」と述べた。

29日は午前9時から午後6時半まで。午前中は日本各地の上陸産卵状況説明、午後は同会議初の食害セッショ

奄美市名瀬の奄美看護福祉専門学校(平瀬吉成校長)で28日、県立大島養護学校(龍郷町)

ためにゲームやレクリエーションを用意。小

△

護福祉専門学校(平瀬吉成校長)で28日、県立大島養護学校(龍郷町)の小学校部を招待したクリスマス交流会が

生の24人が、この日

△

△

# 年明け再稼働遅れも

## 川内原発工事計画補正へ

九州電力は27日、原力規制委員会の安全審査会合で、川内原子力発電所1、2号機（鹿児島県薩摩川内市）の工事計画を来月にも補正する方針を明らかにした。工事計画は、

規制基準で求められた原子炉冷却の多重化や耐震工事など安全対策の詳細な設計をまとめたもので、規制委は記載内容の一部で不備を指摘していた。年明けとみられていた同原発

性もある。同原発の審査では、9月に事実上の合格証となる「審査書」が、号機の補正は、1号機の2~3週間後に提出された。ただし、最終的な合格には、さらに工

の再稼働が遅れる可能性もある。

（1号機）補正を出した「1号機」述べた。2号機の補正は、1号機の2~3週間後に提出されるという。

（読売）

2014年(平成26年)11月29日 土曜日

(9)

# 地元協力で個体数回復

## ハワイのウミガメ増加背景講演

日本ウミガメ会議スタート

第25回「日本ウミ会議」(日本ウミガメ

奄美大島で初開催

ガメ会議・奄美大島メ協議会、同実行委

となる同会議には、

全国各地のウミガメ

研究者が来島。開催

に合わせて、地元小

中学校への出前授業

や海岸調査などを実

施。午後からは「素

晴らしきハワイ諸島

のウミガメたち・驚

異的な回復を遂げた

40年間」というテー

マでバラーズ氏が講

演した。

バラーズ氏は、1

数が回復するまで

講演後には質疑応

答もあり、積極的に

直し、12月の前半には、

行役員は「(工事計画

の)資料構成などを見

この日の審査会合で、

九電の中村明・上席執

事計画の認可が必要。

直し、12月の前半には、

行役員は「(工事計画

の)資料構成などを見

直し、12月の前半には、

行役員は「(工事計画